



対面授業と遠隔授業による
望ましい組合わせの姿を目ざして
—授業アンケート結果による考察—

名古屋大学教養教育院

准教授・丸山和昭

准教授・小松雅宏

教授・栗本英和

本日の内容

- 名古屋大学の教養教育院が春学期末（7月末）に実施した全学共通教育での授業評価アンケートの集計結果を報告する。
- 学生が実際に経験した授業方法について
（※名古屋大学の全学共通教育について、
春学期はすべてICTを利用する遠隔授業であった）
- 学生が望ましいと考える授業方法について
（※対面による授業方法も選択肢に入れて回答を求めた）

2020年度春学期の 全学共通教育の授業評価アンケート

- 趣旨：授業活動の質の検証と改善（毎年度継続）
遠隔授業の実施に伴う追加質問
- 対象：全学共通教育（春学期）の授業の受講生
（アンケートは授業ごとに実施）
- 分析：名古屋大学教養教育院
教育の質保証専門委員会
（丸山和昭、小松雅宏、栗本英和）
- 実施時期：7月9日～7月26日
- 実施方法：NUCTの小テストによる選択＋自由記述欄
- 回答率：58.3%（全授業計）

※授業評価アンケートを実施した926科目で、
受講生の合計が35796人、うち回答は20886件。
本報告に示す集計は、この20886件の回答に基づいている。

（上記の受講生人数、回答件数は、授業ごとの受講生、回答の数の総計であることに注意。
たとえば、一人の学生が3つの授業を受講した場合には受講生3人分としてカウント、
3つ授業のアンケートに回答した場合は回答3件分としてカウントしている）

名古屋大学の春学期の授業について

- 春学期の講義・演習は、LMS管理のもと、ICTを利用する遠隔授業へ。
- 講義・演習の教材については、データダイエットの視点から、音声付PPTを推奨。
- 必要に応じ、Zoom等の利用も可。同時双方向型の講義・質疑応答のほか、動画のオンデマンド配信にも利用。
- アクセスポイントの提供。
- 実験・実習科目の多くは対面で実施。
- 全学共通教育では、実験・実習も同時双方向通信で実施。
- NUCT上の小テスト機能等を使って、すべての講義で課題（宿題）を指示。

本報告が示すデータの位置づけ

- 本報告で用いる授業評価アンケートは、全学共通教育において授業が遠隔授業として実施されていたときのものである。
- 授業評価アンケートの実施期間（7月）は、新型コロナウイルスの感染者数が増加傾向にあった時期（第二波）に当たり、学生の不安が高まりやすい頃に行われた。特殊な条件下で行われた調査の結果であり、そこから授業の在り方を検討することには限界がある。
- 名古屋大学の秋学期の授業では現在、感染防止措置を行った上で、人数を限定しての対面授業と遠隔授業の積極的な併用を行っている。
- 秋学期の授業についても、授業評価アンケート等を通じて、オンラインと対面のよりよい組み合わせを探るための分析を行う。本報告は、今後の継続的な探究に向けた、中間的な報告である。

本日の報告で用いる質問項目

問8. この授業のなかで、あなたが利用した遠隔授業の教育・学習の方法について、当てはまるものすべてを選択してください。

- 教科書を用いた授業
- NUCT等による電子教材（音声・動画ともに無し）を用いた授業
- NUCT等による電子教材（音声あるいは動画あり）を用いた録音・録画形式のオンデマンド授業
- ZoomやTeams等による、定時に同期して行うライブ授業（TVのような単方向）
- ZoomやTeams等による、定時に同期して行うライブ授業（対面対話できる双方向）
- その他

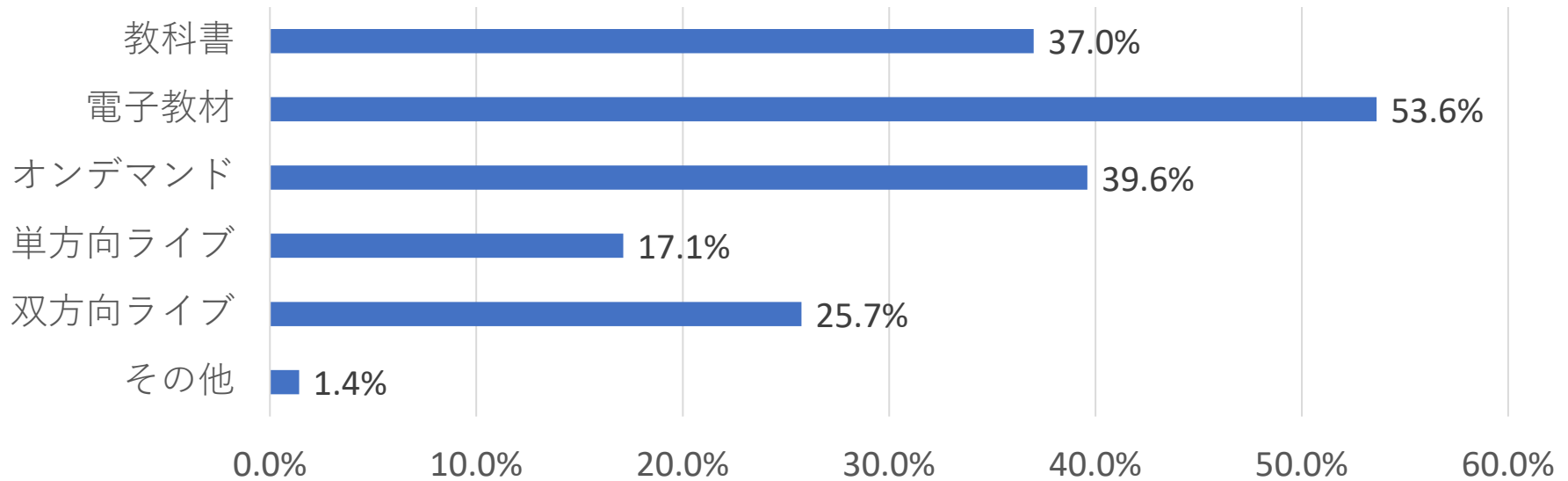
問9. 次年度以降の学生が、この授業を受講する際には、どのような教育・学習の方法が提供されることが望ましいと考えますか。当てはまるものすべてを選択してください。

- 教科書を用いた授業
- NUCT等による電子教材（音声・動画ともに無し）を用いた授業
- NUCT等による電子教材（音声あるいは動画あり）を用いた録音・録画形式のオンデマンド授業
- ZoomやTeams等による、定時に同期して行うライブ授業（TVのような単方向）
- ZoomやTeams等による、定時に同期して行うライブ授業（対面対話できる双方向）
- 実際の教室等を使用した、教員や受講生同士が相互に意思疎通しやすい対面授業
- その他

注）問8と問9の回答は、いずれも複数回答である。

経験した授業方法（Q8）について

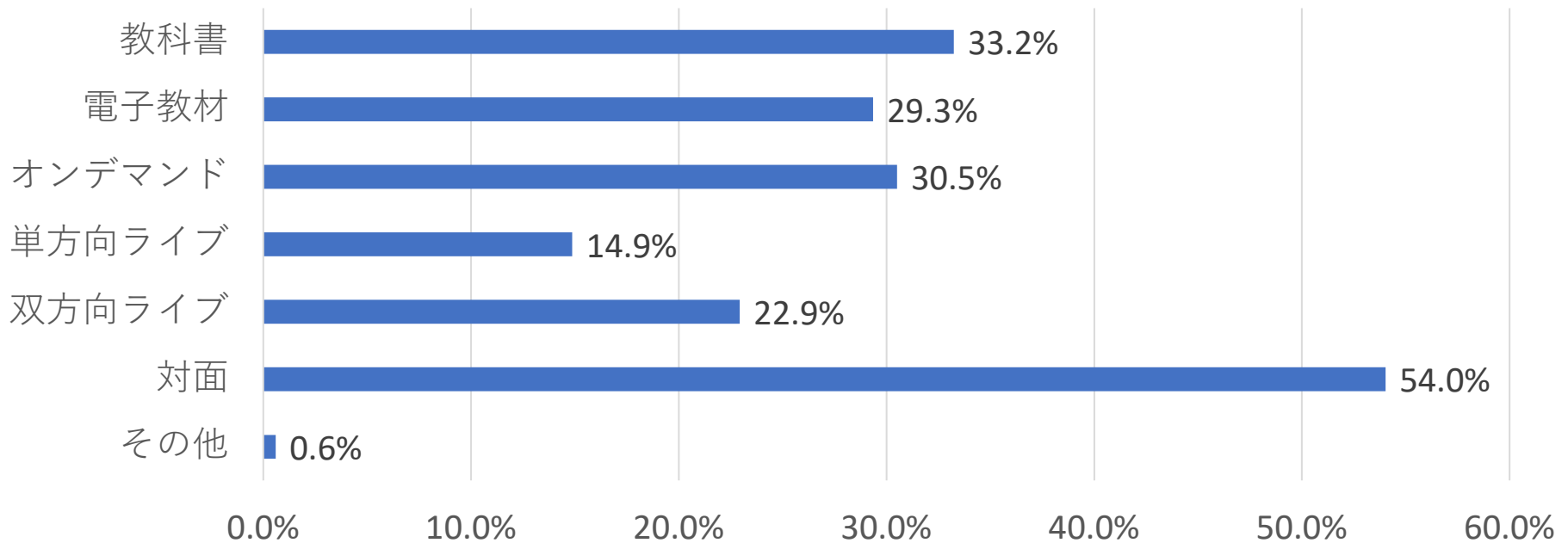
※複数回答であることに注意。たとえば、オンデマンドによる学習と電子教材の配信の両方の手法を実施する授業の受講生は、Q8の回答として電子教材とオンデマンドの両方を選択していると想定される。



・最も経験率が高いのは、電子教材の配信（複数回答のため、このことは、“電子教材の配信のみで行われた授業が最多であった”ということの意味しない）。次点でオンデマンド型授業と教科書を用いた授業。ライブ型授業の経験率が相対的に低いが、これは、授業実施者側がデータダイエットに配慮した結果であると考えられる。

望ましい授業方法（Q9）について

※複数回答であることに注意。たとえば、対面による学習とオンデマンドによる学習を併用した授業形態を希望する場合、学生はQ9の回答として対面とオンデマンドの両方を選択していると想定される。



・対面授業の選択率が54%と突出して高い。ライブ型授業（単方向・双方向）の選択率が相対的に低いが、これは、Q8でみるように、これらの授業形式を経験した学生が相対的に少ないことによるものであると考えられる。

Q8で各授業方法を選択した者のうち
何%がQ9でのそれぞれの授業方法を選択しているか

		望ましい授業方法 (Q9)						
		教科書	電子教材	オンデマンド	単方向ライブ	双方向ライブ	対面	その他
経験した授業方法 (Q8)	教科書	73.6%	28.8%	29.1%	16.9%	26.8%	55.2%	0.5%
	電子教材	33.6%	49.2%	32.8%	14.6%	18.2%	50.9%	0.5%
	オンデマンド	29.3%	27.5%	52.6%	14.0%	17.4%	54.9%	0.6%
	単方向ライブ	36.4%	23.9%	26.4%	44.5%	32.0%	53.2%	0.4%
	双方向ライブ	35.9%	17.4%	17.3%	14.0%	53.8%	68.9%	0.5%
	その他	26.8%	16.6%	22.0%	14.9%	25.1%	66.1%	18.0%

・経験した授業方法が、望ましい授業方法として選択されやすい（担当教員が、各授業に適した方法を採用していたことが推察される）。他方、経験した授業方法が何であっても、過半数は対面での授業を望ましい方法として選択している。

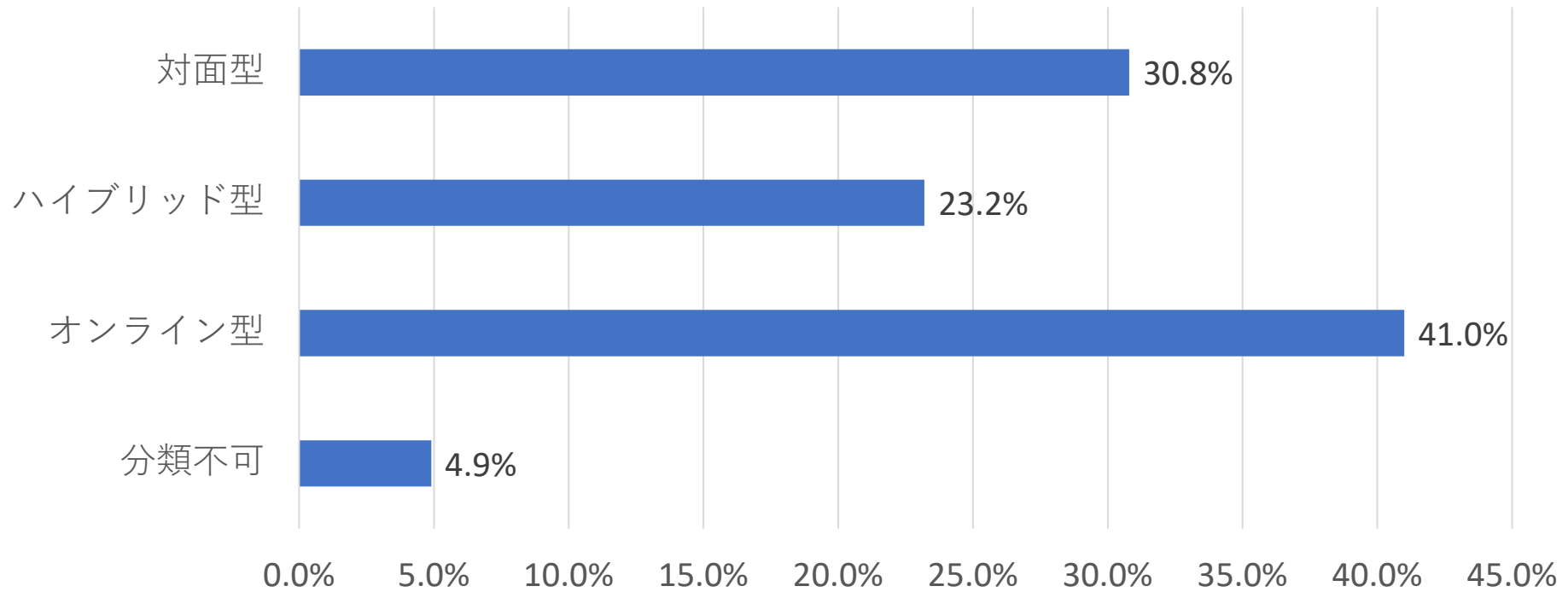
望ましい授業方法の四分類（1）

- Q 9 の回答パターンをもとに、以下の四分類を作成。

区分	回答パターン
対面型	対面のみを選択。 もしくは対面+教科書を選択。
ハイブリッド型	対面+オンラインを選択。 もしくは対面+オンライン+教科書を選択。
オンライン型	オンラインのみを選択。 もしくはオンライン+教科書を選択。
分類不可	上記の3つの区分に含まれないパターン

※ここでいうオンラインとは、双方向ライブ、単方向ライブ、オンデマンド、電子教材のいずれかを1つ以上を選択していることを意味する。

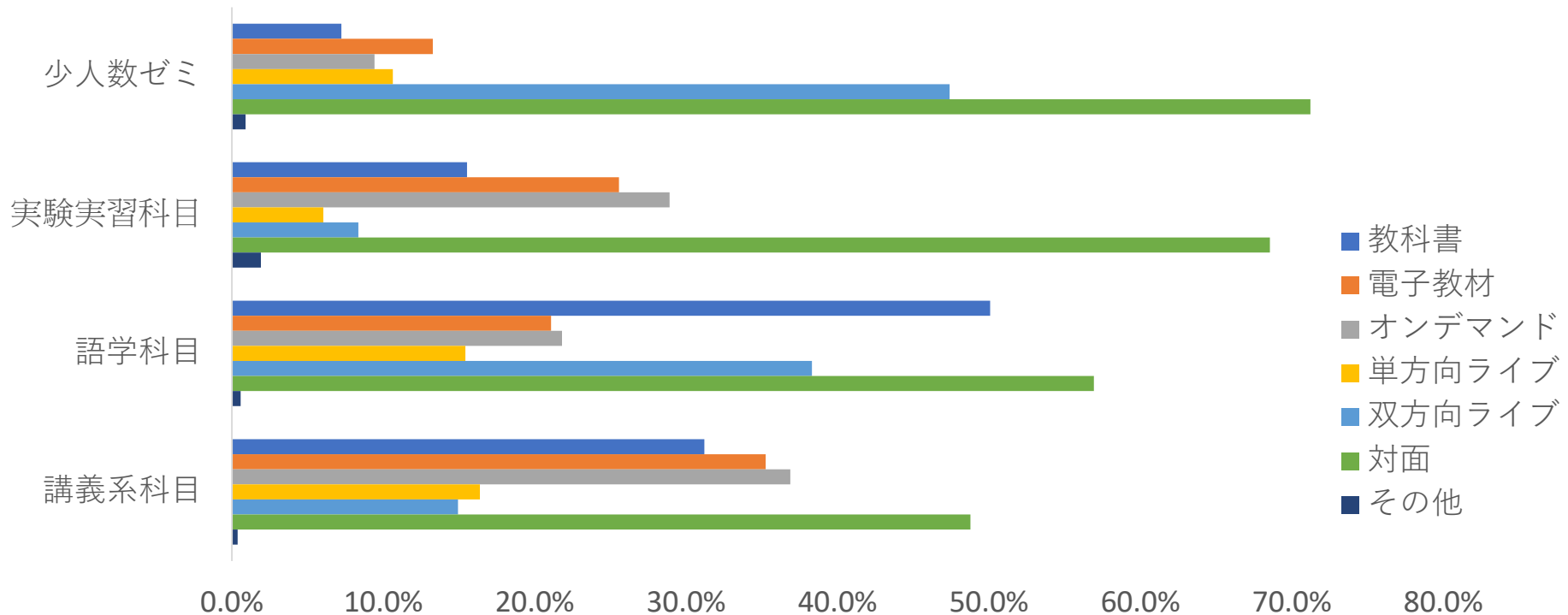
望ましい授業方法の四分分類（2）



・対面を含む区分（対面型、もしくはハイブリッド型）の選択をした学生が**54.0%**で過半数だが、対面を含まない区分（オンライン型）を選択した学生も**4割**いるという結果である。

望ましい授業方法の詳細×授業の種別

(対面の選択割合が高い順に並び替え)



・望ましい授業の開講形態に関わり、対面授業とオンライン授業のベストミックスを考えるため、Q9の各項目の選択割合を、授業の種別に比較した。授業種ごと、学生が望ましいと考える授業方法の組合せが異なるとの点を示す結果である。

まとめ

- 名古屋大学の教養教育院が春学期末に実施した全学共通教育での授業評価アンケートの結果に基づき、学生が望ましいと考える授業方法を検討したところ、対面を含む区分（対面型、もしくはハイブリッド型）の選択をした学生（54.0%）と、オンライン型（対面を含まない授業方法）の選択をした学生（41.0%）が交じり合う状況にあった。
- 対面型の授業と、どのようなオンライン授業を組み合わせるのかについては、授業の種別による違いも大きい。対面による授業方法とオンラインによる授業方法のベストミックスは、科目ごとの特性を考えたうえで検討する必要がある。
- また、学生は、実際に経験した授業方法を、望ましい授業方法として選択する傾向にあった。回答が経験に左右されやすいとの点を示す結果であるが、担当教員が各授業に適した方法を採用していた、との可能性を示す結果でもある。
- ただし、本報告が示す結果は、全学共通教育のすべての授業が遠隔授業として実施されているとの状況を前提としており、かつ、新型コロナウイルスの感染者数が増加傾向にあった時期（第二波）に調査が行われたとの点で、特殊な条件下での調査に基づくものであり、遠隔授業と対面授業の在り方を検討するためのデータとしては限界がある。対面とオンラインのベストミックスを考えるためには、学生の主観だけではなく、教員側の評価や、授業準備に必要な労力と合わせて、引き続き検証を続ける必要がある。

補足) 本報告で用いた用語について

* 遠隔授業：対面での授業とは異なる方法で実施された授業。オンラインの手法を用いた授業の他、教科書等を用いて自宅で学習するような授業方法も含む。

* 対面授業：**Face to Face**による授業方法。実際の教室等を使用して、教員や受講生同士が相互に意思疎通を行う授業方法。

* オンライン授業：遠隔授業のうち、オンラインの手法を用いた授業を指す。

* ハイブリッド授業：オンラインと対面を組み合わせた授業方法。

* ベストミックス：オンラインと対面の最適な組み合わせを行った授業方法。

* **NUCT**：名古屋大学のLMS（ラーニング・マネジメント・システム）。